

日々の思いを言葉に込めて

6月14日(土)、「わたしの主張2008」が文化創造センターで開催されました。市内の中学校6校から代表男女1人ずつが出席し、社会や世界に向けての意見や、家庭・学校生活など身の回りや友達とのかわりについて、またテレビや新聞などで報道されている社会のさまざまな出来事に対する意見など、自分の考えを発表しました。

栄えある最優秀賞にエスカラダ・アレックスさん(蘇南中)、優秀賞には吉田樹矢さん(中部中)と吉田ゆうなさん(西可児中)が選ばれました。その主な内容を紹介します。

最優秀賞
光になりたい



エスカラダ・アレックスさん (蘇南中3年)

7歳のころから日本が好きで、日本を第一の「故郷」にしようと決心し、母と一緒に日本にやってきました。ばら教室で学習し、蘇南中学校へ入ってから言語の違いによる欲求不満の毎日

した。悔しい思いもしました。言葉が足りないために、思いや心の痛みを伝えることができなかったのです。フィリピンにいる父は常に「アレックス、決してあきらめるんじゃない。成功への道は困難なものだ」と言ってくれます。

たった二年間ですが、自分の国では経験することのできない多くのことに出会い、知識を追求することの無限の可能性も学んできました。その中で発見したことは、日本の一番の宝物は何よりも日本人だということです。そんな日本の素晴らしさを学んで、次の世代にとっての光になりたいと思うようになりました。努力を続ければ、明るい未来がきっとやってくる。私は信じています。

優秀賞
社会に通用する感性



吉田樹矢さん (中部中2年)

僕のまわりには、僕には理解できない行いをする人がたくさんいます。傘を許可を得ず、勝手に借りていってしまう人。授業中大きな声で平気で私語をしている人。皆、僕には非常識としか思えません。中学校は、「社会に通用する感性」を身につける所だと校長先生から学びました。社会には考えられない出来事ばかりです。だからこそ僕たちは今、中学校生活

でしっかりと仲間を思う気持ちを学び、周りに迷惑をかける心身を身につけなければならぬのです。だからこそ、ぼくは声を大にして言いたい。「人の物を勝手に使うな。掃除をサボるな。あいさつをしよう。そして仲間を思いやる心を持つ」と僕は言い続けます。

言葉は難しいと思います。私たちは、これからたくさんの人たちと理解しあい、協力しあって社会を作っていく立場です。もつとその責任を考え、人間関係の根本である言葉について考えるべきではないでしょうか。私は、仲間と共に毎日の生活の中で考えていきたいと思っています。



吉田ゆうなさん (西可児中2年)

「真面目にやっつてよ。ちゃんと跳べよ」大縄跳びの時のような言葉を掛けられている子がいました。一生懸命にやっつていように見えた私は、「何でその子だけに言うの。ちゃんとやっつていよ」と言いました。その時、冷たい態度と視線が私に集中しました。自分が何をしていたのか一瞬わかりませんでした。

一体何が心のすれ違いを生んだのでしょうか。言葉とは何だろうと思いました。エスカラダ・アレックスさんは、7月4日に行われた第30回少年の主張岐阜県大会。わたしの主張2008。可茂地区選考会においても最優秀賞に選ばれ、地区代表として8月8日に開催される岐阜県大会に出場することが決定しました。

問合先 生涯学習課



善行少年7人と7団体を表彰



優しい気持ちをいつまでも

少年の主張可児市大会



「少年の主張大会」と併せて、善行少年の表彰式が行われました。みんなの手本となる思いやりのある優しい気持ちを、温かい社会の中で育みましょう。

- 広眺ヶ丘子ども会
 - 毎年冬休みに拍子木を打って夜間の防火を呼び掛ける活動を続けています。
- 可児工業高校MSリーダーズ
 - 学校周辺の清掃活動をはじめ、地域ボランティア活動に積極的に参加しています。
- 中部中学校ソフトボール部
 - 膝をつき、そうきんによる職員玄関の拭き掃除をほぼ毎朝、続けています。
- 蘇南中学校国際部
 - 「公民館たより」を「英語版」「ポルトガル語版」に翻訳する活動を行っています。
- 蘇南中学校郷土芸能倶楽部
 - 和太鼓の演奏活動を継承しており、地域の各種行事に積極的に参加しています。
- 蘇南中学校特別支援学級
 - 校庭の「ぎんなんの実」を拾い、袋詰めにして、お世話になった地域の皆さんに配布しています。
- 西可児中学校地域ボランティア
 - 登校時のゴミ拾い活動や、福祉施設や病院などでの清掃活動、合唱披露を行っています。

- 川村拓也さん(蘇南中3年)
 - 鳥谷勇太さん(蘇南中卒業生)
 - 自らの意志で、校内の環境美化活動(窓ガラス清掃、玄関の床磨き等)を行ってきました。
- 高橋尚希さん(蘇南中卒業生)
 - 原田大司さん(蘇南中卒業生)
 - 仲畑昇吾さん(蘇南中卒業生)
 - 学校では、ボランティア活動に参加すると、「ボランティア手帳」に印鑑をもらって取り組みを行っています。3人は、一年間に50回以上参加してきました。
- 西川浩平さん(広見小6年)
 - 伊藤成仁さん(広見小6年)
 - 今年度の分団長、副分団長として、援助が必要な児童をはじめ、分団が安全に気持ちよく登校できるよう努力しています。



表彰式の様子

問合先 生涯学習課